

## 平成29年度第2回経営戦略会議 議事要旨

日 時 平成29年12月11日(月)15:00-17:15

場 所 産業技術総合研究所 関西センター 大会議室(メイン会場)

産業技術総合研究所 東京本部 大会議室(サブ会場)

### <委員>(敬称略)

内永 ゆか子 特定非営利活動法人ジャパン・ウィメンズ・イノベティブ・ネットワーク(J-Win) 理事長

川本 裕子 早稲田大学大学院経営管理研究科 教授

榊原 定征 東レ株式会社 相談役/一般社団法人日本経済団体連合会 会長

中許 昌美 大阪産業技術研究所 理事長

野路 國夫 株式会社小松製作所 取締役会長/経済同友会 イノベーション・エコシステム委員会 委員長

### (ご欠席)

五神 真 東京大学 総長

松尾 清一 名古屋大学 総長

本目 精吾 株式会社エリオニクス 名誉会長

山海 嘉之 筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授/国立大学法人筑波大学サイバニクス研究センター センター長/ CYBERDYNE 株式会社 代表取締役社長(CEO)/内閣府 ImPACT 革新的研究開発推進プログラム プログラムマネージャー

### <産業技術総合研究所>

中鉢理事長、三木副理事長、理事、監事、領域長、他

### <会議の概要>

平成29年度第2回経営戦略会議(12月11日開催)では、地域イノベーションへの取組状況についてお示しし、ご審議頂きました。また、最近の研究トピックスとして、産総研発ベンチャーの元株式会社ジェイタス、および株式会社イーディーピーの事業内容について紹介しました。

### <委員からの主なコメント>

- 産総研もベンチャーキャピタルを設立し、産総研自らが出資できるような方向性を打ち出していくのもひとつの考え方ではないか。民間ではリスクを取れないところを官で取る仕組みが欲しい。
- 産総研発ベンチャーでの成果も産総研の評価項目のひとつとして取り入れたらどうか。また、産総研発ベンチャーに関しては、産総研自らで出資するよりも、むしろ民間資金の取り込みに注力すべきではないか。
- 地域イノベーションへの取り組みについては、人事交流が最も有効な手段である。引き続き公設試や企業との連携活動を続けてもらいたい。
- 企業が大学の技術を利用したい事があっても、実務的、実用的な展開ができない大学との連携は敷居が高い。公設試職員が産総研に訪れるというだけでなく、公設試や企業に産総研が自ら介入し、大学とも連携できるような環境を整えていただきたい。
- 地域産業は第一次産業が圧倒的に多い。農業や林業を代表とする第一次産業のイノベーションを起こすための「橋渡し」についても検討してはどうか。
- 地域イノベーションへの取り組みについては、現在の活動を地道に着実に続けることが重要ではないか。またそういった中で、適切な KPI を設定し、どのようにして世の中にアピールしていくか、を検討すべきではないか。
- 公設試、企業、大学との連携における問題点として、各拠点が県内でクローズしている事が挙げられる。産総研が中核となり、拠点との1対1のネットワークだけでなく、拠点間をつなぐ1対多数のネットワークを構築する事が重要ではないか。
- 地域産業には AI や IoT を使いこなす人材や工数がない。産総研が助ける仕組みを検討してはどうか。
- 個人からベンチャー企業への投資を促進するために、クラウドファンディングのような仕組みを取り入れることを検討してはどうか。